

萩

ネットワーク

第 49 号 2003 年 1 月

発行：萩ネットワーク協会

〒 758-8555 山口県萩市大字江向 510 萩市役所広報課内

TEL 0838-25-3131 FAX 0838-26-5458

萩市ポータルサイト「萩・情報の駅」

<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/>

萩工業高校ラグビー部が全国高校ラグビーフットボール大会県予選決勝戦（11 月）で山口高校を破り、花園ラグビー場（東大阪市）で行われる全国高校ラグビーフットボール大会に出場します。今回が 2 年ぶり 8 回目の出場となります。

全国大会前の 12 月 19 日に萩市民館で萩工業高校ラグビー部の壮行式が行われました。田村耕太郎監督は「今年最高の試合ができるように頑張りたい。初戦を突破し、強豪久我山高校と対戦したい」と決意を述べました。

激励を受けた萩工フィフティーンは全国大会 1 回戦（12 月 28 日）の山形中央高校戦勝利（2 回戦は東京都代表國學院久我山高校と 30 日に対戦）の思いを新たにしました。

写真は松岡征人さん（山口県ラグビーフットボール協会）が山口県予選で撮影されたものです。

2 年ぶり花園へ

萩工ラグビー部



萩・椿まつり、会長新年のごあいさつ・・・P2
萩市と前橋市友好都市に、萩市の重大ニュース・・・P3
萩 400 年の物語 第 12 回（北村知紀）・・・P4～5
ズームアップ [野村武史]・・・P5
山口県手をつなぐ親の会会長 [大嶋宏史]・・・P6
クロマグロトーナメント、萩発句の味便り・・・P7
お役立ちホームページ「電子本舗はぎ」・・・P8
同窓会だより・・・P9
暴力団追放決起大会・・・P10

目次

萩城下町マラソン結果・・・P11
岸田商会萩ボン酢紹介・・・P11
萩国際大学学生募集・・・P11
夢追人 [國本ゆうじ]・・・P12
山口県文化功労賞 [三輪和彦]・・・P13
情報アラカルト・・・P14～15
幕末・維新こぼれ話・・・P16

12月24日に開花宣言 笠山椿群生林

椿の群生林を見に行こう

12月24日に、笠山椿群生林の開花宣言を行いました。また、開花期間中の2月15日から3月21日までは恒例の萩・椿まつりです。20回目を迎える今年は市制施行70周年という節目の年であり、全国椿サミットも開催されます。帰省の折には、萩が全国に誇れる笠山椿群生林を見に行きませんか。

これからが見頃

椿は開花期間が非常に長い花です、1本の木でも最低3か月は花をつけ、椿群生林では2万5000本が咲き揃う3月下旬頃まで見頃は続きます。

椿の開花期間中の3月下旬までに萩に帰省された折には、これから見頃を迎える椿に会いに行きませんか。

萩・椿まつり

萩・椿まつりは毎年椿の最盛期の2月から3月までの1か月間、笠山の椿群生林を中心に開催され、今年で20回目を迎えます。

とき 2月15日(土)～3月21日(祝) 午前10時～午後4時
ところ 萩市笠山群生林
内容 郷土芸能披露、抹茶席、特産品 椿の苗木販売

全国椿サミット

市制施行70周年を記念して、第13回全国椿サミットがまつり期間中の3月18日(土)、19日(日)に開催されます。

全国椿サミットは、ツバキとサザンカを花木に指定している自治体や日本ツバキ協会(安達瞳子会長)の会員等全国のツバキ愛好家らが集い、ツバキ・サザンカをテーマに町おこしの情報提供や交流を目的に開催されています。萩市での開催は平成7年以来、8年ぶり2回目になります。

椿見どころ案内人

椿まつり期間中の土・日曜日、祝日には萩の椿と自然と文化を正しく理解していただくため、「椿見どころ案内人」が無料で椿群生林内の見どころ、スポット



を案内します。開花期間中は平日でも予約制で案内しています。

問い合わせ 市の観光課 (25・3139)

■週刊「四季花めぐり 椿」(小学館)

笠山椿群生林の他、全国各地の椿の名所や、椿の基礎知識や品種等を紹介しています。



新年のごあいさつ

萩ネットワーク協会会長

萩市長 野村興児



時代は、壮大な歴史のうねりの中で大きな変化を始めており、我が国は、今、戦後経験したことのないような新たな局面を迎えようとしています。そして、このような情勢の変化に対応すべく、各分野での諸制度の抜本的な見直しが行われようとしています。経済の分野でも、今までの「右肩上がり」からいよいよ年金や給与の減額等の「右肩下がり」の経済に直面しています。

◆経済・産業の新機軸

萩・阿武14漁協の合併によって水産物卸売市場が統合され、日本海側の最大級の市場が誕生し、魚価の低迷する中で、冷凍・冷蔵施設、消費者への直販施設とともに、新しい流通拠点として市場機能を強化しています。また、農林業では「地産地消」の運動が展開され、畜産では新団地の発展が期待されています。

昨年伝産法(伝統的工芸品産業の振興に関する法律)の適用とな

った萩焼は、広範な分野で国の支援が可能となり萩陶芸家協会を中心に新たな展開を始めております。観光立市を標榜する萩市にとっては、毎年米国人観光客を運ぶクリッパー・オデッセイ号をはじめ、本年秋には、再び豪華客船「飛鳥」が来萩する等、海からの観光が定着してまいりました。また、萩往還道を活用したウォーキングなど新しい体験型の観光も増加しております。

一方、文化財等歴史的遺産を活かした「まちじゅう博物館」構想を推進し、また伝えられている多くの「萩物語」「萩学」の情報発信に努めていきます。フィルムコミッション(萩口ケ支援隊)やポータルサイト「萩・情報の駅」等各種ルートを活用し、萩を紹介していきます。

◆来年はいよいよ萩開府400年

慶長9年(1603)毛利氏が安芸の国から長門の萩の地に移封され、萩開府してから来年で400年の節目の年となります。外堀をはじめ、多くの文化財の復元・修復をはじめ記念事業を計画中ですが、開府の記念日には新博物館を開館することとしております。

末尾になりましたが、会員の皆様様の御多幸をお祈り申し上げ新年のご挨拶といたします。

萩市の重大ニュース



4 / 1 山口はぎ水産物地方卸売市場開場

萩市、阿武郡に8か所あった市場を統合、県内初の高度な衛生管理対応の市場。製氷・冷凍冷蔵施設、ふるさと萩シーマートと併せて、中核流通基地として機能。

6 / 29 国道191号萩拡幅事業完成

県立萩美術館・浦上美術館までの約800mを4車線道路に拡幅。3月に市役所周辺の広場等の整備を終え開通、6月には電線類地中化工事も完了。

7 / 1 萩市制施行70周年記念式典施行

昭和7年7月1日の市制施行から70年を迎えた今年度は^{ウルサン}蔚山広域市への市民号派遣、囲碁名人戦、萩ウェルネスパーク武道館の完成、大相撲萩場所などの記念行事を実施。(式典では萩市のうた「萩のなないろ」の発表、人間国宝・三輪節夫さんの萩市名誉市民への推挙などが行われる。

7 / 8 新博物館の工事着工

重要伝統的建造物群保存地区内で、新博物館の建築工事が開始。「萩学」のセンター的役割を担い、「まちじゅう博物館」構想の中核的施設として整備。萩開府400年の2004年(平成16年)11月に開館予定。

本体は鉄筋コンクリート1部2階建、敷地は約1万4,000㎡

7 / 30 萩広域市町村合併調査検討協議会を設置

萩市、阿武郡(阿東町除く)の1市3町4村が合併任意協議会を設置。現在まで7回の会議で重要4項目などを協議。(3回目の会議で田万川町が退会。萩市では9月から10月に講演会、市内10ヶ所で住民説明会を開催。

萩市と前橋市が友好都市に！



初代の群馬県令(現在の県知事)が萩市出身の榎取素彦であったという縁で、前橋市と萩市が友好都市として交流することになり、その提携調印式が12月18日、前橋市で行われ、萩原弥惣治前橋市長と野村市長が協定書に署名しました。

群馬の初代県令

かとりもとひこ
榎取素彦は萩出身

榎取素彦は、明倫館で教授し、のち吉田松陰の妹^{おとよ}と結婚し、松下村塾でも指導にあたっていました。維新後、地方官を経て、群馬県の初代県令(現在の県知事)となり、県庁を高崎から前橋に移転して伝統産業の養蚕・製糸業を奨励し、教育にも力を入れて、草創期の群馬県政に大きく貢献しました。

県庁移転の功績を讃え、群馬県庁浦の高浜公園には功德碑が建立されており、また最近では、萩市観光宣伝隊が同市を訪れるなど、両市間での交流が進められています。

平成14年が、前橋市は市制施行110周年、萩市は市制施行70周年に当たることから、これを記念して両市は友好都市提携を結び、



調印式で野村市長から萩焼を受け取る萩原前橋市長(前橋市は特産の近代こけしを贈呈。12月18日前橋市)

両市の発展の礎を市民の皆さんと再認識しながら、教育・文化・産業など各分野の交流を促進し、相互の友好と繁栄を一層推進することとなりました。

現在の萩市の姉妹都市は^{ウルサン}蔚山広域市・下田市・鎌倉市・輪島市で、友好都市は世田谷区です。

市町村合併の動き

11月18日 第6回任意協議会「基本2項目合意」

前回からの継続議題となっていた合併の基本4項目(「合併の方式」、「合併の期日」、「新市の名称」、「事務所の位置」)のうち合併の方式と期日は、合併特例法期限内の平成17年3月31日までの早い時期に、新しい市を設置する新設合併ということで合意しました。

新市の名称は、決定の方法も含めて今後の検討課題とし、事務所本庁舎は萩市とし、現在の各市町村の支所、出張所の存続については今後検討することで合意しました。

12月5日 第7回「住民アンケート結果の中間発表」

住民アンケートは萩広域の15歳以上を対象に市町村合併の是非等を質問しました。1市2町4

村の各人口に比例する形で、計5000人を無作為抽出し、アンケート用紙を郵送で配布し、うち2309人から回答を得ました。(回収率46%)

合併の是非については「積極的に市町村合併を進めるべきだ」が20・5%、「合併の検討をする必要がある」が49・3%で、合併に肯定的なのが合わせて69・3%と多数を占めました。「合併は必要ない」は10・2%、「よくわからない」は18・7%、無回答は1・3%でした。

継続審議になっていた「議員定数と任期」については、7市町村の議員全員に引き続き最長2年間在任できる「在任特例」を適用することで合意しました。



検地とは何かー領民、重税に苦しむ

江戸時代、長州藩は5回の検地を行った。うち3回が藩政初期の25年間にたて続けに断行されている。なぜか。それは、関ヶ原の敗戦で8カ国、112万石が2カ国、30万石に激減し、度々幕府に出費のかさむ手伝い普請を命じられ、破綻に瀕した藩財政を再建するためだった。目的は歳入増をはかること、即ち増税にあった。しかし、余りに過酷な重税となって領民が耐えられず、山代（玖珂郡の奥地）で一揆が起き、各地で出奔者が絶えなかった。このため14年後には税率を下げる検地をせざるを得なかったのだ。検地とは何であったか。

10年で8割増、過酷な三井・蔵田検地

「検地」を辞書でみると、田畑を一筆ごとに測量し、面積・等級・石高・耕作者を定めることとある。目的が増税にあったことは先に述べた。それをよく示すのは、検地の結果いつの場合も石高増が打ち出されることだ。「打ち出す」には『日本国語大辞典』でズバリ「検地をして地積を増す」とある。

慶長5年（1600）から寛永2年（1625）の間、防長両国の3度の検地で最も重要なのは、三井・蔵田検地である。担当者、三井元信・蔵田元連の名前をとった呼称だが、執政の座には毛利秀元（長府藩主）がいた。慶長12年（1607）から15年まで、田畑・屋敷はもとより山の果樹や浦の漁獲、温泉に至るまで課税対象をくまなく徹底して調べ上げた。

その結果、前回慶長5年検地の29万8千石を8割も上回る53万9千石を打ち出した。まことにべらぼうな数字というほかない。

確かに、この江戸前期は全国的に新田開発が進んでいたし、慶長5年検地は関ヶ原戦を前に慌ただしく大雑把に行われた。とはいえ、わずか10年でこの増え方は尋常でない。領民は山奥の隠し田一枚から一木一草まで容赦なく把握されたのだらう。

天下の標準税率40%、長州は73%

この検地が防長の百姓にとりいつそう酷だったのは、これに7つ3歩成・73%という前代未聞の高い税率を課されたことだ。知られるように、江戸時代、幕府が示した標準税率は4公6民、すなわち4つ成・40%である。幕府領はじめ他藩はおおむねこれで課税され、

三井・蔵田、熊野両検地とも本藩執政の座にあった長府藩主毛利秀元（下関市長府博物館の図録『毛利氏と下関』より）



者」により九州小倉には周防町や長門町ができたほどだという。あまりの高税率は幕府や他藩への間こえも悪く、治世の基盤を危くする事態だった。

50%に下げたが肩身は狭かった

このため秀元は熊野藤兵衛に命じ、租率を5つ成・50%とする検地を、寛永元年（1624）から翌年に行かせた。今回は実地の測量・調査はせず、各村の庄屋に命じて過去4年間の税額を平均し、それが5つ成に見合うよう石高を決定した。帳簿上の操作だった。寛永の〇検地とよばれる。

この時も総石高は65万8千石と前回の2割増を打ち出したが、税収は逆に16%強減っている。百姓はわずかに息をつけたのである。5つ成に下げたがまだ標準よりは高く、幕府に対して肩身が狭かったようだ。

ある時、幕府老中から「御両国の物成は只今何ほどか」と問われ、江戸留守居役が「大抵5つ成の定めですが、左様には相成らず、

山代一揆から390年、1999年、「十一庄屋」の追悼法会が営まれ、出版された記念誌『山代の心』改訂版



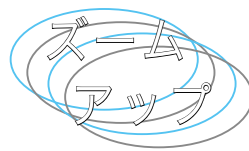
ほぼ3分の1、80年以上を重い税に苦しんだといえるだろう。

山代一揆、十一庄屋の義挙語りつぐ

話が後先になったが、山代一揆にふれた。三井・蔵田検地が始まって翌慶長13年（1608）、山代地方の百姓たちは過酷をきわめる課税に減税を嘆願するが効なく、ついに同年10月、11人の庄屋が一味同心して決起する。山代は田が少なく、租税を主として紙で収める山間地だったが、この時から半世紀まえ大内氏の滅亡後、陶氏に味方し、毛利氏に反抗した土地柄。

「こんな高い年貢では百姓は生きていけない」。命をかけた激しい行動に代官側がおれ、税率は下げられ、百姓は矛を納めた。だが、年が改まって同14年（1609）正月15日、代官所から北野孫兵衛ら11庄屋に呼出し状がくる。11人は3月29日、一揆の首謀者として斬首のうえ首をさらされた。

仲間のため身を捧げた義挙は長く語りつがれ、維新前後など歴史の折々に蘇った。その時から390年、1999年秋、山代の地・



野村総合事務所代表・西日本国際交流推進協会専務理事 野村武史氏

(下関市在住、昭和30年秋高卒)



氏は、幕末にロンドン大学に留学した長州五傑の写真をもとに製作した銅板レリーフを萩市に寄贈、現在市役所ロビーに展示

萩への一言

「萩の文化遺産は明治維新にあり」というのが、私の率直な意見である。

鎖国政策に覆われた日本の国を、黒船という外圧に恐れた当時の為政者に立ち向かい、近代日本に仕立て上げた底力が、吉田松陰先生をはじめ多くの長州藩士の命がけの奮闘によって成し遂げられたのである。

この中で多くの志士は萩の生まれであり、少なくとも山口県内の生まれであったことに、私は同郷のものとして65年間を生きて来た。その集大成が今回、萩市役所ロビーに置いてある「長州五傑」

の銅版レリーフと平成15年5月12日に除幕する「長州五傑顕彰碑」の建立である。

私は萩高在学中の3年間、多くの先輩・先生方につれられ、萩の武家屋敷や歴史について学んだ。そのお陰で大学に在学中も成人してから萩と関わりのある場所に出入りしては見識を深めることにしていた。その甲斐あってか、僅かながら皆さんより多くの知識を得る事になった。特に、明治維新に関する史跡の探訪は私より多く触れた人はいないと思うほどに場所指定ができるようになった。

この経験を、国際交流の推進という大役を外務省のバックアップで行うようになってから、海外との交流に日本人としての誇りとしたことはいうまでもない。「より良い国際人になるためには、まず、より良い日本人であること」これが外務省の幹部として各国に大使・公使として働かれた外交官の皆さん達の言葉であった。私はこの時「身はたとひ武蔵の野辺に朽

▶領民に重税を課することになった三井・蔵田検地の「御検地帳」。長門国「川嶋」(萩デルタの南部)の部分。(山口県文書館所蔵)

高くて5つ成・50%だった。生産あるいは所得の73%を税金に取られるなど、想像を超える悲惨である。ために、後に語るように、一揆がおき農地を捨て他国へ逃亡する者が絶えなかった。これら“走り

所により3つ成、4つ、或いは4つ半でございます」と眉唾ものの答えをしている。

長州藩が世間並みに租税を4つ成に下げたのは、実に寛永検地から62年後の貞享検地からである。従って、防長両国民は江戸期の

玖珂郡本郷村で、十一庄屋追悼法会が営まれた。地元の人たちが実行委員会をつくり、各地から縁故者も参集し、記念誌『山代の心』を出版している。(つづく)

郷土史家 北村 知紀

ぬとも 留めおかまし大和魂」と辞世の句を残された松陰先生のことはが背筋を走り、しかも、「至誠」が目の前をよぎっていたのである。今でもこの「至誠…松陰」と書かれた額は私の頭の上に常においているのであるが、苦境に陥った時この言葉に何度救われたか知れない。

さて、私はこの機に及んで、萩市民や萩の出身者にとにかくいう資格はない。私自身が何も萩に対して貢献したことがないからである。それを覚悟で一言申し上げるならば、「自信を持って一歩を踏み出そう」と言う事ぐらいである。近頃、下関から萩を見ていると、萩の人は後からでなくては歩かないのではないかと思うほど、動きが悪い。「昔は一番前を歩いているのが萩の人だったのだがなあ」と思いながら、萩の方角の空を見上げている。

私の曾祖父も維新の頃に何度も下関まで出かけていたらしい。祖母から聞いた話だが「下関に戦争

にゆく」と出かけたのだそうだ。そして、英国などの四国連合艦隊に負けてしまったのである。私はその英国に出掛けて、「今度は負けないぞ」と誓ってきた。「長州五傑」が学んだロンドン大学の同じ部屋の椅子に座り、どうすれば良いか考えて見た。一つは窓から見える「長州五傑」の顕彰碑を建てること、もう一つは「日本再生のために航空機産業を構築する」ことであると思った。

当時138年前にはロンドンまで船で4か月かかった。今では15時間、即ち一日でいける。この差が昔と現代の差だと思った。当時、飛行機はなかった。しかし、今では誰も飛行機を知らない者はいない。船の建造と列車・石炭の採掘で日本を建ち上らせた五傑に負けないためには、もっとも現代的な裾野が広い産業として航空機製造(アジアエアバス)が必要だと考え、目下、石原東京都知事と並んで経済産業省や外務省に働き掛けている毎日である。

「山口県手をつなぐ親の会」会長

大嶋 宏史氏 (60歳)

(萩市浜崎町在住、昭和36年秋商卒)

創業明治元年・海産物製造の老舗「大つち」の社長業で忙しい身ながら、障害者支援組織「山口県手をつなぐ親の会」の会長、そして道の駅「萩しーまーと」の理事長として活躍されている大嶋宏史氏にお話をお聞きした。

障害者支援組織の「手をつなぐ親の会」

昭和20年、敗戦の呆然としていたその中に、戦後の精神薄弱児の活動は始まりました。「手をつなぐ親の会」の運動は昭和27年、東京の3人のお母さんから始まり、全国の関係者に呼びかけて歩みを開始しました。萩市でも昭和29年、明倫小学校に特殊学級が開設

され、それを機にPTAの有志によって「手をつなぐ親の会」が発足しました。

現在では、山口県の54市町村で「手をつなぐ親の会」運動と事業が、多くの先輩たちの努力によって推進されています。

少子高齢化の時代になり国でも高齢化対策として介護保険制度がスタート、また障害者には本年度より措置制度から契約制度(支援費制度)に移行されます。

今、集団主義に馴染んだ古い世代と、まず自己主張を優先する若い世代のギャップが問題視されますが、「ノーマライゼーシ



道の駅・萩しーまーとのスタッフジャンパーを着て

ン

ョン」の理念を忘れず、社会の変化、環境の変化、意識の変化を見極め、その変化に対応できる人材の育成、ややもすると会長や一部の役員・会員に偏重しがちな業務を「役割分担」していくこと、「手をつなぐ親の会」には多分野にわたって豊富な社会経験と優れた能力を持った人材が求められます。役割の分担を求め、求められれば積極的に参加する、お互いに「頼りにしあう」心の共同体として、新しい目標に向かって一致した努力を尽くしたいと思っています。

道の駅「萩しーまーと」

萩沖にある日本有数の漁場にて水揚げされた新鮮な魚介類を中心に、地元で収穫される多彩な農畜産物、各種加工品など、「萩の台所」に相応しい郷土色豊かな食材の提供、そして城下町萩が育んだ「おいしい食文化」を発信する施設として道の駅「萩しーまーと」を、平成13年4月にオープンいたしました。

安全で安心できる食材の提供、対面販売による商品情報の提供、また買い物物の楽しさを伝えるための季節ごとのイベント開催。消費者参加型の施設として、地元はもちろん観光客も喜んでいただいております。

世の中、不景気風はなかなか収まりそうにもありませんが、こんな時だからこそ、消費者のご意見

に耳を傾け、これからの施設運営に取り組んでまいりたいと思います。

■プロフィール

昭和17年4月29日萩市浜崎町生まれ。昭和36年3月萩商工高等学校卒業、同年4月(株)大水平入社(大阪中央卸魚市場)、昭和40年4月萩に戻り(有)大つち入社。

現在、(有)大つち代表取締役社長、萩海産物加工協同組合代表理事、ふるさと萩食品協同組合(萩しーまーと)代表理事、山口県「手をつなぐ親の会」会長、萩の魚ブランド化推進協議会会長、ほか公職多数



平成14年4月 萩しーまーと入館者150万人目のお客様に目録を手渡す大嶋氏

「幕末、若き志士たちが

行きかった道」

萩往還が

注目されています

情緒満点の城下町「萩」と、西の京とも呼ばれる県都「山口」とを結ぶ古くからの道「萩往還」。

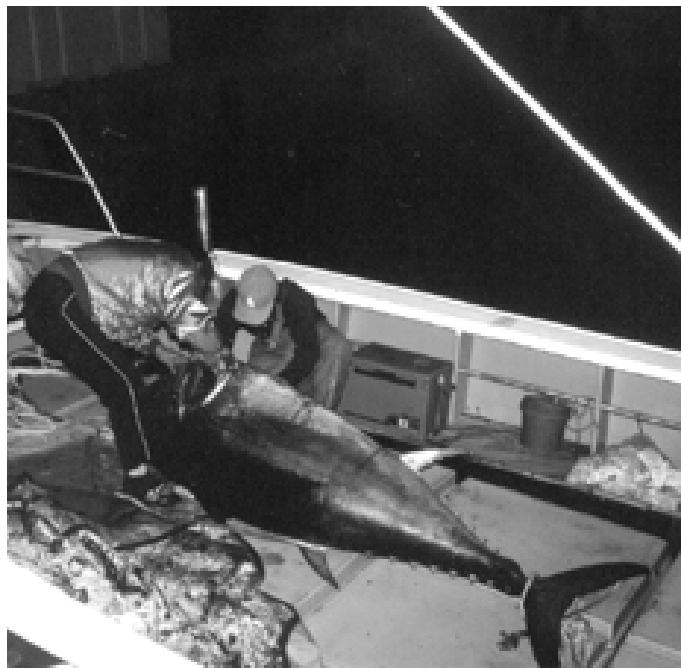
歴史の道100選にも指定された「萩往還」は、山陽と山陰をつなぐ重要な連絡路として古くから多くの人が利用しています。

2つの魅力的な町の町歩きもさることながら、江戸時代、殿様や志士たちが行き来した道が、今も往時の雰囲気そのままに残っています。街道沿いには史跡も多く、道もよく整備されていて、旅好き、歴史好き、歩き好きを満足させます。

平成14年11月には、街道を見直し、地域の活性化につなぐ全国的なネットワークづくりを目指す「第1回全国街道交流会議」が萩市で開催されました。

今、全国で街道が注目されており、雑誌「ウォーク2002/3秋冬号」(山と溪谷社、全132ページ、780円)、「週刊日本の街道17号」(講談社、全33ページ、560円)でも特集されています。





11月16日 赤崎望さん（赤崎旅館社長、見島 本村）
が釣り上げた200kgオーバーのクロマグロ

萩市見島沖約2km、通称セダカ
八合漁場で11月24日、第5回萩ク
ロマグロトーナメントが開催さ
れ、県内をはじめ東京・福岡・広
島などから13チーム、37人がエン
トリーしました。

大会前に200kgオーバーの太
物が漁師さんによって仕留められ
ました。



ており、期待感のなかでのスター
トでしたが、1日目はマダイ・ヒ
ラマサなど全体で150匹の釣果
があったものの、マグロの姿をみ
ることはできませんでした。悪天
候に阻まれ、2日目は中止となり
ました。結果、102.7cmのシ
イラを上げた広島市のチーム「ボ
ス」に特別賞が贈られました。

萩発旬の味便り



鮫鰯【あんこう】

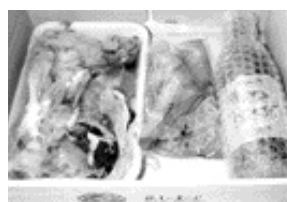
あんこうは冬が旬

萩沖に北風が吹き出すと、魚市
場にアンコウの姿が目立ってきま
す。普段は砂泥底に潜み、頭部に
ついた触手状の突起を動かして、
誘いに乗った小魚やエビ類を捕食
する習性が図鑑などで紹介されて
います。萩ではホンアンコウとク
ツアンコウが水揚げされますが、
味は同等であり区別されていま
せん。旬はズバリ冬。肉身・えら・
皮・肝臓・尾びれ・卵巣・胃袋と
いずれも食べることができ、これ
らを昔からアンコウの「七つ道具」
と呼んでいます。

調理済みの料理はお手軽

萩市内の魚屋さんでは、姿のま
ま販売されることもありですが、
ほとんどはぶつ切りにした身と肝
など七つ道具をセットしたパック
売りで中心で、料理もお手軽で
す。価格は魚によって変動の大き
い魚種ですが、体長30cmの大きさ

で1500円前後、鍋にして3人
前です。高級品のイメージが強い
アンコウですが、萩の地元では安
く味わうことができます。萩し
まーとでは1月限定の「アンコ
ウ鍋セット」を売り出し中。
問い合わせ 道の駅・萩しーま
ー（0838・24・4937）



【お勧めメニュー】

あんこう鍋セット（萩産地物アン
コウ 鍋用ぶつ切り・アン肝・萩
産かんきつ使用のポン酢360
ml 1本、クール便送料、税込
3600円）

冬の味覚といえはやはり、あつ
たかいお鍋。ふく鍋・魚ちり鍋・
牡蠣鍋と枚挙に暇がありません
が、通好みが「あんこう鍋」。弾
力があり味わいの深い身と、あん
肝の濃厚な味、そして皮や卵巣・
内臓・ヒレに至るまで、いろいろ
な部位の味わいを楽しむことがで
きます。ぶつ切りになったパック
を購入し、肝と味噌を合わせたダ
シ汁に、季節の野菜やお豆腐と一
緒に鍋で煮込むだけ。ポン酢に浅
葱や唐辛子を利かせてお楽しみく
ださい。

お店紹介

海辺のレストラン

ヴァン・ヴェール

手作りにこだわり、お手頃な価
格でフランス料理を味わう店（平
成13年9月開店）。

窓から、海・山を眺めながら、
時間を忘れゆっくり食事が楽しめ
ます。

おすすめ

- ① レゼルブランチ（オードブル、
スープ、メイン料理、野菜サラダ、
デザート盛り合せ、パン、コーヒ
ー）季節感を取り入れ、手作りの
デザートもあります。1280円
- ② グランドディナー（オードブル、
スープ、メイン料理、野菜サラダ、
デザート盛り合せ、パン、コーヒ
ー）色々な手作りの味が楽しめます。
4600円

営業時間 午前11時～午後9時

住所 萩市大字椿東5159

120（中小畑2区、湾を挟ん
で萩しーまーと向い、山口はぎ漁
業協同組合小畑支所裏）



グリーン・ツーリズムの手法で

新たな萩広域の観光開発に着手

萩広域観光チャレンジ事業連絡協議会（12月20日初会）

萩広域1市3町4村の

若手メンバー約20人で構成

萩広域観光チャレンジ事業連絡協議会は、萩青年会議所・前年理事長 岩崎喜一郎さんが発起人となり、阿武郡・萩市の1市3町4村の広域観光について検討していきます。

萩市を中心とした歴史文化を資源とした従来型の観光ではなく、萩広域地区の持つ、海山川といった自然資源や、一次産業や一次産品を資源として、新たな体験型観

光にトライアルしようというものです。

1市3町4村の商工会青年部等から各2人程度の委員が集まり協議会を形成、事務局は萩広域市町村組合と萩県民局が担当します。

グリーン・ツーリズムは

新しい観光スタイル

グリーン・ツーリズムとは、農業体験や漁業体験に象徴されるように、その地域で行われている生業を疑似体験したり、地域が持つ自然資源を利用した自然体験プ

ログラムに参加したり、単なる物見遊山の観光ではなく、観光客自らが参加し体験する新しい観光スタイルです。全国各地で地域興しや過疎対策、そして都市農村交流の手法として脚光を浴びてきています。

また、学校における総合学習のプログラムとして、週5日制に伴う自由時間増加の受け皿、そして修学旅行のオプションツアーとしても注目されています。

3年後の実運用を目指して

検討スタート

今回の協議会では、単に調査研究を行い報告書をまとめるといったレベルではなく、体験プログラムの策定、受入れ態勢の整備、集客宣伝を中心とした営業活動、事

業収支、地域への経済波及効果の測定など、3年後の法人設立・実運用を目標に検討に入ります。そのため、グリーン・ツーリズムの専門家はもとより、起業の実践ノウハウを持った外部人材をアドバイザーとして起用します。



平成 14 年 12 月 20 日の発開式の様子



萩商工会議所青年部 インターネットショッピングモール 電子本舗【はぎ】オープン！

【URL】<http://www.haginet.ne.jp/users/hagi/>
多彩な56店舗が掲載！

問い合わせ窓口としての機能も！

萩商工会議所青年部が、今年度の「街づくり委員会」で計画してきたインターネットショッピングモールが10月8日にオープンしました。青年部会員の事業所56店舗が掲載されており、一般的な海産物や萩焼に始まり、マニア向けの石材や帯のことまで、他のサイトでは見られない多種多様な商品やサービスが詳しく掲載されています。

また、簡単なアンケートに答えるだけで豪華賞品が当たる月替わりのプレゼントコーナーや、割引クーポン券のサービスも13店舗で使えるようになっています。

ショッピングモールとしての使い方の他に、掲載56店舗には全て担当者名と連絡先（メールアドレス・電話番号・FAX番号）が明記されているため、萩に関するさまざまな問い合わせ窓口としても気軽に活用できます。



電子店舗（はぎ）トップページ



萩市からは「萩諸島」として参加し、1万2000人あまりの来場者に萩の島のPRを行いました。見島、大島、相島、櫃島（総人口2534人、総世帯数936世帯）と萩には4つの有人離島がありますが、その元気を伝えることができました。

アイランダー 2002

全国約 140 の島が参加！

平成 14 年 11 月 23 日、24 日にサンシャインシティ（東京都池袋）でアイランダー 2002 が開催されました。この催しは、全国の離島の PR のために国土交通省等が主催するものです。

萩・石見空港発着格安プランのご案内！

飛行機と宿泊代をセットにした、お得な萩・石見～東京・大阪線「スッ飛び関西・東京」と「ほのぼの石見ふるさとパック」が大好評をいただいています。そこでキャンペーン期間を平成15年3月末まで延長しますので、旅行、帰省、出張、同窓会等幅広くご利用ください。

●スッ飛び東京（2日間）

1人1室利用の場合 33,000円～（宿泊料込み）

●スッ飛び関西（2日間）

1人1室利用の場合 22,200円～（宿泊料込み）

●「ほのぼの石見ふるさとパック」

大阪発着 21,600円～（1泊朝食付）

東京発着 24,100円～（1泊朝食付）

●「萩・石見空港」発着時間

東京便

東京発 10時20分 → 萩・石見着 12時

萩・石見発 18時35分 → 東京着 19時55分

大阪便

萩・石見発 12時30分 → 大阪着 13時25分

大阪発 16時50分 → 萩・石見着 17時50分

●空港連絡バス発着時間

萩バスセンター発 8時30分、10時20分、16時20分

萩・石見空港発 12時15分、18時10分

料金 1,560円

申し込み 防長トラベル萩支店（0838・22・1861）、ツーリスト山口（0838・26・6412）

エヌティーエー旅行（0838・21・0020）

山口宇部空港から萩市内へ 乗り合いタクシー運行！

萩近鉄タクシーは、平成14年12月から萩市内と山口宇部空港を結ぶ乗り合いタクシーを運行しています。萩、長門地域を含む山陰側と同空港を結ぶ直行タクシー運行は初めてです。

同空港―東京便が今年7月から、全日空と新規参入の日本航空によるダブルトラック（2社運航）化され、観光客や東京出張などにより利用者が増加しました。これまでは、バス路線でも、小郡駅を経由しなければならなかったため、萩市と空港を結ぶ直行便の要請が出ていました。

使用するタクシーは9人乗りのジャンボタクシーで、自宅やホテル、旅館など宿泊先の玄関まで送り迎えます。

所要時間 1時間30分（前日までに予約が必要）

定員 9人（1人より運行）

料金 片道3000円（6歳未満は無料）

予約 萩近鉄タクシー（0838・22・0924）



皆で校歌斉唱

ありました。続いて行われた懇親会では、下

萩地区4校合同同窓会

11月22日

南風泊唐戸市場（下関市）

11月22日、下関市南風泊唐戸市場の活魚センターで、来賓会員あわせて約60人が参加して萩地区合同同窓会が開催されました。総会では松村久たちばな会下関支部長、益田宗親下関巴城会会長らが挨拶し、萩高校の藤本昌範校長による近況報告が



花束を受ける益田さん（下関巴城会会長）

関唐戸魚市場の提供によるふく鍋とふくさしを味わいながら、思い出話に花が咲いていました。豪華ふく鍋セットが当たるビンゴゲームでは番号が読み上げられる度に歓声があがり大変な盛り上がりを見せました。

また、下関巴城会会長の益田さんが秋の叙勲（勲五等双光旭日章）を受章したこと、野村武史さん（萩高30年卒）が平成14年度の外務大臣表彰を受賞したことが報告されました。

最後に各学校の校歌を斉唱し、2年後の再会を約束して閉会となりました。

下関巴城会事務局は益田宗親（☎0832・32・3387 益田耳鼻咽喉科）、たちばな会下関支部事務局は網戸武（☎0832・67・8181 下関唐戸市場 南風泊市場内）

萩市初の暴力追放パレードに

500人の市民が参加

萩市暴力追放決起大会とパレードが12月3日、萩市民館で開催され、市民約500人が参加、暴力団追放を訴えて行進しました。

萩市内では、一昨年春の暴力団組事務所へのダンブカー突入事件、昨年7月の連続けん銃発砲事件、そして昨年末から街宣車による大音量の街宣活動などが発生しましたが、これらの容疑者等が相次いで逮捕されたことで、暴力団等の活動が一時沈静化していまし



約500人の市民が参加した「暴力追放パレード」

た。その後も、市が発注している新博物館や新川雨水ポンプ場の建設工事の関連事業者らが暴力団等排除協議会を設置するなど、暴力追放運動が広がりつつありました。ところが、暴力団が勢力保持のため、新市の組員等を市外から送り込み、市内に事務所を設置するなど、再び活動が活発化してきました。

今回の大会は、こうした状況を受けて開催され、市民一人一人が暴力追放三

萩城外堀発掘調査で

ミニチュアの大砲？火縄銃？を出土

都市計画街路今魚店金谷線の整備に伴って、(財)山口県教育財団山口県埋蔵文化財センターでは、平成9年度から萩城外堀の発掘調査を行っています。

12月7日には、発掘成果を紹介する現地説明会が開催されました。実際の遺跡内で発掘担当者が説明を行い、出土遺物も展示されました。参加者は約70人でした。

今回は、田中大将の銅像の向かい、元の宮本商店付近の発掘が行われました。そこから江戸時代の町屋の遺構が発掘されましたが、そのうちの一軒は火災で焼けた後、その残骸の上に土をのせて新しい家を作っていました。火事が起きたのは、17世紀後半から18世紀前半と考えられます。

この火災家屋の残骸から、大砲の砲身模型が出土しました。長さは約16cm、青銅製です。もとは木製の台が付属していたものと思われ、穴も貫通しており、小さいながら、実際に玉を発射できたと考えられています。詳しいことは専門家が調査中ですが、大砲というよりも、大砲の形をした火縄銃と考えられるそうです。

この家は、江戸時代には藩主の参勤交代にも使われた中の総門の

すぐ近くなので、有力な町人の家であったと考えられます。火災の跡からは、他にも高級な陶磁器や茶入れ等の茶道具がたくさん見つかったことも、これを裏付けるものと思われます。

この発掘調査では、毎年たくさん陶磁器や生活道具が発見され、江戸時代の町人の生活を考える上での貴重な資料となっています。今年の調査は1月で終了しますが、来年度以降も継続して行われる予定です。

旧首相官邸の「ミニズク」が萩へ

旧首相官邸に最初に入居したのが萩市出身の田中義一首相という縁で、その屋上に飾られていた「ミニズク」のレプリカが11月30日、建物のれんがの一部、



建設時の写真とともに、萩市役所に届けられました。田中家のご厚意により実現したもので、送られてきたものは、旧官邸の屋上に飾ってあった4体のうちの1体のレプリカです。高さ82cm、幅54cm、石膏で作られており、現在は平安古の旧田中別邸に設置され、一般公開されています。

ミニズクは、ローマ神話では女神ミネルバの使いで「知恵の象徴」「不寝番」という意味があります。旧官邸は昭和4年に完成、以来73年間、ミニズクは官邸の番人として、様々な出来事を見てきました。



発掘調査で出土した青銅製の大砲の砲身模型

最多の2345人が参加 第3回維新の里萩城下町マラソン

12月15日、椿の萩ウェルネスパークをスタート・ゴールに萩城下町マラソンが開催され、福岡県（192人）、広島県（129人）など全国28の都府県からこれまでで最多の2345人が参加、健脚を競いました。

午前10時、野村萩市長の号砲でハーフマラソン（952人参加）がスタート。続いて、ファミリー（126組252人）、10km（505人）、5km（428人）、2km（208人）の部が順次スタートしました。招待選手の谷口浩美（沖電気宮崎）選手はハーフマラソンに出場、「がんばって」と他のランナーを応援する余裕の走りを見せました。



谷口浩美招待選手（中央）の軽快な走り

また、12月23日には山口朝日放送（YAB）で、1時間の特別番組「第3回維新の里萩城下町マラソン」が放映されました。

河村建夫代議士 文部科学副大臣に就任

12月1日、堀内の千春茶味楽亭で、河村建夫代議士の『体当たりの教育改革』出版記念並びに文

部科学副大臣就任祝賀会」が開催されました。代議士は、「国の礎は教育にあり」の信念の下、一貫して文教政策に取り組まれていきます。今回の祝賀会は、2回目の文部科学副大臣就任（平成14年10月、前回は平成13年11月4月）を記念し、また著作の出版記念として、開催されました。

著作の「体当たりの教育改革」は、代議士自らの体験を通して綴る、七転び八起きの子育て奮闘記です。

だいたいポン酢、テレビで絶賛

ご覧になられた方もおられると思いますが、11月18日、関西の毎日テレビで、味付ポン酢が紹介、絶賛されました。紹介されたのは土原にある（株）岸田商会の「岸田ポン酢」で、午後3時からの3時間番組「ちんぷいぷい」で「関西人のお鍋生活が変わる？プロも絶賛の味付ポン酢」というタイトルで放映されました。

（株）岸田商会は大正12年に創業を開始した老舗で、萩の本だいたいなどを原料に製造、ふぐ刺し、しゃぶしゃぶ、焼き物などに、主に業務店用として販売されています。インターネットでの購入もできますので、ぜひ一度、プロも絶賛する柔らかいコクと風味をご賞味ください。

商品

- 手しほり本だいたい酢（720ml） 1500円
- 味付ポン酢ポボンのボン（720ml） 1050円
- 味付ポン酢味兆（720ml） 1050円



新入学生、編入学生を募集

平成15年度「萩国際大学」学生募集

【国際学科】

異文化社会の深い知識と理解を持つて、日本と世界とのかかわりを的確に把握し、適切な行動ができる人材を育成。

募集人員 新入学生1140人
編入学生11若千名

コース 比較文化コース、比較経済コース

【経営情報学科】

21世紀の新しい企業の経営システム及びソフトウェア開発の創造と、経営政策を立案できる人材を育成。

募集人員 新入学生1160人
編入学生11若千名

コース 情報コース、経営コース、会計コース

■新入学生選抜日程（両学科共通）

入試区分	選抜方法	出願期間	試験日	合格発表
一般選抜	前期日程	学科試験、書類選考	1月8日 ～1月28日	2月2日(日) 2月7日
	後期日程	小論文、面接、書類選考	3月10日 ～3月31日	4月3日(木) 4月5日
大学入試センター試験を利用する選抜	前期日程	学科試験、書類選考 ※萩国際大学の個別学力検査等無し	1月14日 ～2月7日	2月20日
	後期日程		3月24日 ～4月2日	4月5日
社会人特別選抜	B日程	小論文、面接、書類選考	3月10日 ～3月31日	4月3日(木) 4月5日

■編入学生選抜日程（両学科・年次共通）

入試区分	選抜方法	出願期間	試験日	合否発表
編入学	C日程	学科試験（英語） または小論文、面接、書類選考	3月10日 ～3月31日	4月3日(木) 4月5日

出願書類の請求と提出先 〒758-8585 萩市椿東浦田5000番地
萩国際大学入試センター（0838・24・4000）



人形作家

國本 ゆうじ 氏 (45歳)

(萩市中小畑在住、

アトリエYOU工房 西田町)

イラストレーター・人形作家として数々の権威ある賞を受賞し、平成13年、萩に帰郷された國本さんにお話を聞きしました。



國本さん 工房内で作品をバックに

ファミレスの店舗開発の仕事からグラフィックの世界に転進

生まれは、萩の中小畑です。椿東小から第一中学、奈古高を卒業、当時成長過程にあったファミリーストランチェインに就職し、山口市で2年間、その後首都圏に転勤になり、3ヶ月サイクルで次々に新店舗を立ち上げる仕事に携わっていました。血気盛んな年頃でしたので、当時の上司とケンカ、外食産業から一切足を洗って違う世界に、と考えていたところ、映画の看板を描く仕事にめぐり合ったのが、グラフィックデザインの世界に入るキッカケとなりました。

コンピュータによる画像制作の世界に

看板の仕事に就きながら、夜学で「セツ・モードセミナー」に通い、本格的にデザインを勉強。その後、レーザーカラーで一世を風靡した「第一興商」に入社、制作部に所属してカラー画面のバックに流れる2D画像をコンピュータで作成。当時、コンピュータはまだまだ珍しく、コンピュータグラフィックスもまだ黎明期といった感じ、本当に忙しい毎日の連続でした。約10年第一興商に勤め、

その後フリーランスとしてビクターやワーナーパイオニアの仕事をしていました。フリーになってから、仕事にも慣れ、自由な時間を利用して長期間海外に渡ったり、もちろん創作活動も続けていました。お陰様で数々のグラフィック関係の賞もいただき、2000年には、第17回ハンス大賞に入選、これを機に人形作家としての活動を始めることに。

平成13年、萩に帰郷

そして、平成13年5月、いろいろな偶然が重なって、萩に帰郷。



萩画房に隣接する「YOU工房」
店舗前に國本さん作のオブジェが

昨年年4月に、叔母が経営する田町商店街「萩画房」の隣にアトリエ「YOU工房」を開きました。9月には、萩市内で人形の個展を開き、大勢のお客様やマスコミの方々に来ていただき、確かな手ごたえを感じました。今後は、萩画房を叔母から引継ぎ、店舗をリニューアルして切り盛りしていくとともに、福岡や広島での個展開催を当面の目標として、創作活動にも勢を出していきたいと思っています。(談)

■プロフィール

1957年生まれ。セツ・モード・セミナーにてグラフィックデザインを学ぶ。東京宣伝美術社、第一興商製作部を経て以後フリーのイラストレーターとして独立。日本グラフィック展・日本オブジェ展などで数々の賞を受賞。2000年、第17回ハンス大賞入選を機に人形作家として活動。2001年5月、帰郷。萩市草莽ギャラリーにて初の人形作家として活動。2002年4月、アトリエYOU工房(萩画房横西田町24番0338・22・2427)開設。ホームページアドレス <http://www.hagineta.ne.jp/users/hagigabou/you/>

山口県文化功労賞（美術・陶芸）

三輪和彦氏

（51歳 無田ヶ原）



ザリ・カウンスル委員（運営委員）を務めるなど、県の文化振興に貢献されたことが評価されました。

陶芸家三輪和彦さんが第7回山口県文化功労賞を受賞しました。三輪さんは、陶芸を機軸としつつ、陶芸の領域を超え現代美術シーンで活躍中。

1998年にオープンした、音楽、美術、ダンス等幅広い芸術文化に対応できる山口県の施設「秋吉台国際芸術村」では、アドバイ

「2001年に、東京、京都で開いた個展では、『花を活ける』をテーマに、『花冠』を出品しました。

山口県選奨（芸術・文化・スポーツ功労）

兼田三左衛門氏

（82歳 前小畑）



工芸作家兼田三左衛門さんが山口県選奨を受賞しました。

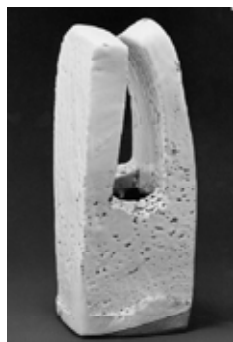
兼田さんは、昭和15年以来62年の永きにわたり、職人氣質に徹し萩焼一筋に打ち込まれました。現

大地のもつ包容力、厳しさ、豊かさ等のイメージを作品を通して表現したいと思っています。」

三輪さんは、最近建築への興味が深まり、新たにスタジオを建築しました。

■プロフィール

1951年萩市生まれ。1980年サンフランシスコ・アート・インスティテュート卒業。1984年山口県立美術館にて作品発表。以後、現代美術や現代陶芸の企画展に数多く出品。写真、映像表現などの異分野にも活動を広げている。



「花冠」（2001年）蟹のハサミを思わせる突起が手招きする

在も、高齢にも係わらず日本伝統工芸展などで入選、入賞を果たすなど、萩焼の向上発展に多大な貢献をされたことが評価されました。

山口県立萩美術館・浦上記念館だより

華やかな

明代陶磁器

4月6日（日）まで

県立萩美術館・浦上記念館が所蔵する青花、五彩陶器、また三彩、法花といった鉛釉陶器も含めて、明代陶磁器の世界を紹介します。



法花蓮華文壺



葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川冲浪裏」

北斎・広重・国芳 富士の風景
落合芳幾の世界
1月28日～3月2日
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 月曜日
入館料 一般500円、学生400円
問い合わせ 山口県立萩美術館・浦上記念館
（0838・24・2400）

萩信用金庫

（0838・22・3111）
のカレンダーでは毎年、県立萩美術館・浦上記念館の浮世絵所蔵品から有名な作品を紹介しています。

今回は喜多川歌磨の「難波屋おきた」です。1793年ごろの作品で、寛政の三美人の一人といわれた、浅草隨身門わきの水茶屋難波屋のおきたを描きました。

今年は歌磨の浮世絵！ 萩信用金庫 カレンダー完成



情報アラカルト

関東地区

■下瀬信雄写真展「結界Ⅳ」

自然と人間のかかわりを「結界を結ぶ」行為を通して考えようとしてきたこのシリーズも4回目です。下瀬信雄のモノクロ45点の作品を紹介します。

とき 2月10日(月)～22日(土)
ところ 東京都中央区 銀座三コ
ンサロン



■岡田裕茶陶展

萩焼作家・岡田裕の作品が展示されます。

とき 1月22日(水)～27日(月)
ところ 鎌倉市鶴岡八幡宮前 黒田陶苑

■現代陶芸の華

～西日本の作家を中心に萩焼作家・三輪龍作、和彦、兼田昌尚の作品が紹介されます。2月2日には三輪龍作の講演会があります。

とき 1月25日(土) 3月～16日(日)
ところ 茨城県笠間市笠間 茨城県陶芸美術館

東海地区

■現代陶芸の100年 日本陶芸の展開

岐阜県現代陶芸美術館のオープン企画として開催。

萩焼作家・三輪休雪、三輪和彦、岡田裕、兼田昌尚の収蔵作品が展示されます。

とき 1月19日(日) まで
ところ 岐阜県多治見市東町 岐阜県現代陶芸美術館

中国地区

■シルバー・ジュエル展

大屋窯の浜中孝子のリング、ブレスレットなど手作りアクセサリを展示します。

とき 11月1日(金)～17日(日)

ところ 島根県益田市西平原町 草花舎

■第49回日本伝統工芸展

萩焼作家・岡田裕、波多野善蔵、波多野英生、樋口大桂、松尾操風の作品が展示されます。

とき 1月22日(水)～2月11日(祝)
ところ 広島市中区上幟町 広島県立美術館

■萩・大屋窯

大屋窯の濱中月村、史朗、孝子の作品が展示されます。

とき 3月7日(金)～13日(木)
ところ 広島市南区出汐 ギャラリー花独楽

四国地方

■第49回日本伝統工芸展

萩焼作家・岡田裕、波多野善蔵、波多野英生、樋口大桂、松尾操風の作品が展示されます。

とき 1月4日(土)～19日(日)
ところ 香川県高松市番町 香川県文化会館

■First Contact

～時代を問う若き写真家と陶工の願い

大屋窯の濱中史朗の作品が展示されます。

とき 1月24日(金)～2月4日(火)
ところ 香川県善通寺市大麻町

世田谷美術館で 萩陶芸家協会新鋭展

この度萩焼陶芸の次世代を担う若手の伝達を目的として、2003年萩陶芸家協会「新鋭展」を開催します。「一茶、二萩、三唐津」茶陶の誉れ高い萩焼。その萩焼陶芸界の明日を支える若手陶芸家の近作を一同に紹介します。

とき 1月7日(火)～12日(日) 午前10時～午後6時

ところ 世田谷美術館(東京都世田谷区砧公園1-2)

共催 萩市、世田谷区

陶芸家名 金子 司、秦 奈生美、岩崎真理子、船崎 透(以上萩市在住)、小川浩延(三隅町在住)、大和 稔(山口市在住)、大和 努(山口市在住)

交通 ●東急田園都市線「用賀」駅から美術館行バスで「美術館」下車徒歩5分 〇小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バスで「美術館入口」下車徒歩5分

※1月7日(火) 午前11時から三輪陶芸協会会長、世田谷区長が出席して開会式が行われます。

灸まん美術館

九州地区

■第49回日本伝統工芸展

萩焼作家・岡田裕、波多野善蔵、波多野英生、樋口大桂、松尾操風の作品が展示されます。

とき 2月13日(木)～18日(火)
ところ 福岡県福岡市天神 岩田屋

■守繁栄徹、徹父子展

萩焼作家・守繁栄徹、徹の作品が展示されます。

とき 2月11日(火)～17日(月)
ところ 福岡県北九州市小倉 井筒屋

山口県関係

■萩焼香合展

萩焼作家22名の作品「香合」が展示されます。

とき 1月1日(水)～31日(金) 午前9時～午後6時
ところ 山口市湯田温泉大隅タクシード階 おおすみ歴史美術館

■萩市関係

萩・4人展

萩焼作家 金子司、中島大輔、濱中史朗、野坂和左の作品が展示されます。

とき 3月7日(金)～13日(木)
ところ 萩市呉服町 ぎやらりい彩陶庵

出版情報

■「ウォーク2002／3秋冬号」
吉田松陰が、高杉晋作が歩いた道「萩往還」の特集が掲載されています。

129ページ。

定価 780円（税込）

発行 山と溪谷社

■週刊「四季花めぐり 椿」

笠山の椿群生林が紹介されています。

41ページ。

定価 560円（税込）

発行 小学館

■「週刊現代 12月28日号」

作家椎名誠が「にっぽんカメラ漂流 海を見に行く」のグラビアコーナーで笠山を紹介しています。

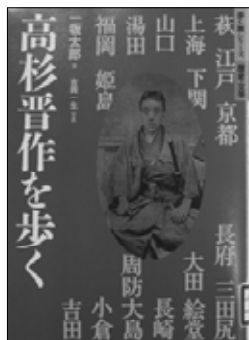
定価 330円（税込）

■「高杉晋作を歩く」一坂太郎著

奇兵隊を結成し、内戦の末落政の主導権を奪取し幕府と対決。しかしその後病に倒れ、29歳の若さで歴史の舞台から去った高杉晋作。その短い生涯をたどり、志の片鱗に触れる旅ガイド

定価 1500円

発行 山と溪谷社



■「窯別ガイド萩」石崎泰之（県立萩美術館・浦上記念館学芸員）著、下瀬信雄（写真）

穏やかな釉の色合い。高麗茶碗と深い関わりをもつ、様々な器形と高台。温かで親しみあふれる萩焼の、初期から近代、現代に至るまでの名品鑑賞を中心に、歴史・技法、見る・買う・作るのコーナー等幅広く紹介

定価 1800円

発行 淡交社



■「山河ありき 明治の武人宰相 桂太郎の人生」古川薫著

日露戦争時の首相で、三度の首相に就いた萩出身の桂太郎は拓殖大学の創立者でもあった。20世紀に目を向けた軍人政治家の生涯を描いた書き下ろし長篇歴史小説

359ページ。

定価 619円（税別）

発行 文春文庫



■週刊「日本遺産 14号」

萩・津和野が特集されます。1月23日発売予定（一部地域1月24日）

定価 560円（税込）

発行 朝日新聞社



テレビ情報

■「釣りバカ日誌12 史上最大の有給休暇」（全国TBS系）

萩を舞台に撮影され、平成13年夏に全国公開された作品。

放送予定日

平成14年12月29日（日）

午後9～11時

※県内はテレビ山口（TYS）

■「るり色の砂時計・新春スペシャル」

新春スペシャル「九州山口温泉旅図鑑 2003年保存版」で、萩本陣、江戸屋横丁、菊屋家住宅、堀内鍵曲、萩城跡が紹介されます。

放送予定日

1月3日（金）

山口朝日放送（YAB）

午後2時30分～3時25分

1月2日（木）

九州のテレビ朝日系で放映

萩・文学散歩

瀬戸内晴美 「涯しない旅」

今回は「瀬戸内寂聴」で知られる作家瀬戸内晴美の作品「涯しない旅」を紹介します。

「東光寺の裏側にまわると、山の上に吉田松陰の生家跡がある。夕靄の中に見下ろす萩の城下町はひっそりとおだやかで、夕餉のけむりがあちこちから立ち上り秋空に吸われている様子は土佐絵のような眺めであった」

性の先駆者として広い人気を得るに至った。

「萩へ」と題した紀行文は、平凡社から刊行された「山河漂泊」に収められているもので、その後集英社文庫として「涯しない旅」と改題して出版された。

在学中に北京滞在の男性と結婚、そして夫の教え子である青年との恋愛発覚を機に離婚。恋愛、破局を重ねた作者にとって萩はどのように映ったのだろうか。

「萩に来て、私は蘇生した思いがした。人口五万二千とかのこの古い城下町にはまだ、汚れない空が生きており、ふめば靴裏にやさしく弾力を押しかえす土が残っており、土塀のかげのさす道があった。」

萩訪問に魂の浄化を得た作者は、「隠棲するには萩ほどすばらしい土地はないように思う」と萩へ思いを寄せている。



東光寺の万灯会

それぞれの幕末維新(2)

勤皇僧 田中芝玉

田中芝玉は、天保4年(1833)5月1日、萩城下細工町で三島万吉の3男として生まれました。幼名を碌蔵(ろくぞう)とい、後に姉夫妻の田中家の養子となりました。8才の時に、萩城下の東郊にある萩藩主の菩提寺東光寺の住職大機和尚に師事し、得度して芝玉と称しました。このころ、芝玉は藩校明倫館に入学するために、同じ年であった波多野金吾(後の広沢真臣)の援助を受け、金吾の家で僧衣を脱ぎ、金吾の羽織・袴を身に着け、刀を差して共に明倫館に通学したといひます。

20才となった嘉永5年(1852)春、芝玉は京都に上り、臨済宗妙心寺派の大本山妙心寺で禅を修業し、ついで摂津国瀧山村(現在、兵庫県川西市)の少林寺で放牛和尚に師事しました。少林寺は、師の大機和尚がかつて住職をつとめていた寺で、大機和尚から見れば、放牛和尚は芝玉の兄弟子にあたります。修業すること10年余りたった文久3年(1863)8月18日、尊王攘夷を唱えていた萩藩は、公武合体派の会津藩と薩摩藩によって京都から追放されました。そこで、入江九一と寺島秀之助(寺島秋介、寺島忠三郎の兄)は少林寺を訪ね、芝玉に京都の情報探索を依頼しました。京都での失地



田中芝玉

回復をねらう萩藩のために、芝玉は京都と摂津の間を行き来し、情報の収集に努めました。しかし、翌元治元年(1864)7月19日に禁門の変が勃発し、萩藩は幕府のほか会津・薩摩両藩を主力とする連合軍に完敗を喫しました。芝玉も、新撰組による捕縛の手からかろうじて逃れ、同年9月8日に山口へ帰還することができました。

禁門の変に敗れた萩藩は、幕府にひたすら謝罪降伏しようとする保守派が政権を握り、禁門の変を主導した尊王攘夷派の肅清に乗り出しました。芝玉も保守派政府の嫌疑を受け、山口から萩へ送られて東光寺の一室に幽閉されました。しかし、元治元年12月16日の高杉晋作の下関挙兵をきっかけとして、翌慶応元年(1865)1月6日に大田・絵堂の戦いが開始され、奇兵隊をはじめとする諸隊が保守派の政府軍に勝利しました。ここに、萩藩は討幕派が政権を握り、来るべき幕府との決戦に備えて、富国強兵・軍備の充実に邁進することになりました。

芝玉も幽囚の身を解放され、奇兵隊に入隊するようになりました。「奇兵隊日記」をひもとくと、慶応元年4月19日に芝玉が長府(現在、下関市)へ行つたと記録されています。「奇兵隊日記」の中で芝玉の記載があるのは、この1カ所のみですが、芝玉が奇兵隊と何らかの関係を保持していたことがわかります。おそらく、情報収集

や諸連絡などの役割を任っていたのではないのでしょうか。慶応2年(1866)6月7日、幕府との四境戦争が開戦すると、芝玉は小倉口の高杉晋作の陣営に馳せ参じました。芝玉は、奇兵隊が主力の小倉口での死闘を目の当たりにしたに違いありません。

明治元年(1868)12月、芝玉は小倉赤坂(現在、北九州市小倉北区)にある奇兵隊士の墓を守りその霊を弔うために、同地に移住し庵を結ぶことを藩に願い出、許可されました。同時に、摂津から放牛和尚を呼び寄せました。現在、激戦が展開された赤坂の地には、戦死した16名の奇兵隊士の墓とともに、放牛・芝玉の供養塔がひっそりとたっています。また、芝玉のご子孫のお宅には、今でも奇兵隊士16名の位牌が大切に保管されています。

慶応3年(1867)春、病に臥した晋作を見舞いに訪れた芝玉に、晋作は「死んだなら釈迦と孔子に追いつきて、道の奥義を尋ねてこそおもへ」という和歌を贈り、「戦袍雲脚集」という詩集を託したといひます。明治24年(1891)4月14日、晋作の25回忌にあたり、芝玉は晋作から贈られた詩集を携えて東京に赴くとともに、その詩集を印刷し頒布しました。

萩市郷土博物館 樋口尚樹

Topics

全日空・日本航空
機内誌 12月号で萩をPR

全日空の機内誌「翼の王国」の12月号では、長州から英国ロンドン大学に密航留学した「長州五傑」を20ページにわたって特集しています。特集では、それぞれの功績を掲載、五人が渡ったロンドン等の街を文献を基にしたエピソードを紹介しながら、伊藤博文、井上勝らを育てた萩の街をカラー写真をふんだんに使って紹介。ロンドンで撮影され、「日本人初めての洋服姿」とも言われる五人の写真も掲載し、読む人をノスタルジックな世界に引き込みます。

日本航空の機内誌「ウインズ」12月号では10ページにわたって、今を感じる焼きものを巡るとして、「萩焼」を特集しています。市内在住の3人の陶芸家(岡田裕さん、兼田昌尚さん、三輪和彦さん)を訪ね3人の作品を紹介し、萩の町並を萩焼と白壁が相まって優美さをいっそう際立たせると紹介しています。